地 理 歴 史

1　全般的事項

問１　地理歴史科の指導計画の作成に当たって、どのようなことに留意すればよいか。

学習指導要領の総則には、指導計画の作成に当たって配慮すべき事項として、「各教科・科目等について相互の関連を図り、発展的、系統的な指導ができるようにすること。」と示されており（第１章第５款の３の(1)）、地理歴史科においても、この趣旨を十分に踏まえ、教科の目標に即し、教科全体として調和のとれた科目選択が行われるよう留意して、指導計画を作成することが必要である。

「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」の学習に当たっては、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させることや世界と日本を関連付けて扱うこと、地理的条件とも関連付けることが、「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」の学習に当たっては、地理的条件や世界の歴史と関連付けることや国際環境や地理的条件などと関連付けることが、「地理Ａ」、「地理Ｂ」の学習に当たっては、歴史的背景を踏まえることが求められており、地理歴史科を構成する科目として相互の関連を図ることが必要である。

また、地理歴史科は中学校社会科の学習の成果の上に立って、生徒の発達段階や科目の専門性を考慮して学ぶものであり、各科目の内容は、特に中学校社会科地理的分野、歴史的分野との関連が深いことや、公民科の各科目と相互に関連する部分が多いことなどの点も考慮して、指導計画を作成するよう留意することが大切である。

問２　各科目の指導に当たっては、情報の活用と作業的、体験的な学習が重視されているが、そのねらいや取扱いはどのようなものか。

情報化の進展に伴い、多種多様の情報を収集、選択、処理し、有効に活用することがますます重要になってきている。情報を活用する能力は学習に対する主体的な取組の中で培われる。地理歴史科においても、自主的な学習活動を通じて、自ら考え正しく判断できる力を育成するという観点から、各種資料の利用、観察、見学、調査などの作業的、体験的な学習を導入しつつ、情報活用能力を培う必要がある。また資料の活用に当たっては、多面的・多角的な考察を通して、諸事象に対して公正に判断することができるようにすることが大切である。このことに関して、地理歴史科の各科目において、例えば、次のようなことなどが示されている。

「世界史Ａ」及び「世界史Ｂ」の「３　内容の取扱い」の(1)のイ

「年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりする」

「日本史Ａ」及び「日本史Ｂ」の「３　内容の取扱い」の(1)のウ

「年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫する」

「地理Ａ」の「３　内容の取扱い」の(2)のイの(ｱ)

「地図の読図や作図などを主とした作業的、体験的な学習を取り入れる」

「地理Ｂ」の「３　内容の取扱い」の(2)のアの(ｱ)

「地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れる」

問３　地理歴史科において、どのように言語活動の充実を図っていくのか。

今回の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく図ることとしている。

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは言語に関する能力である。さらに、言語は論理的思考だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。したがって、今回の改訂においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。

このことに関して、地理歴史科において、教科の特質に応じて言語活動の充実を図ることが、例えば、次のように示されている。

「世界史Ａ」の内容(3)の「オ　持続可能な社会への展望」

「現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。」

「日本史Ｂ」の内容(6)の「ウ　歴史の論述」

「社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。」

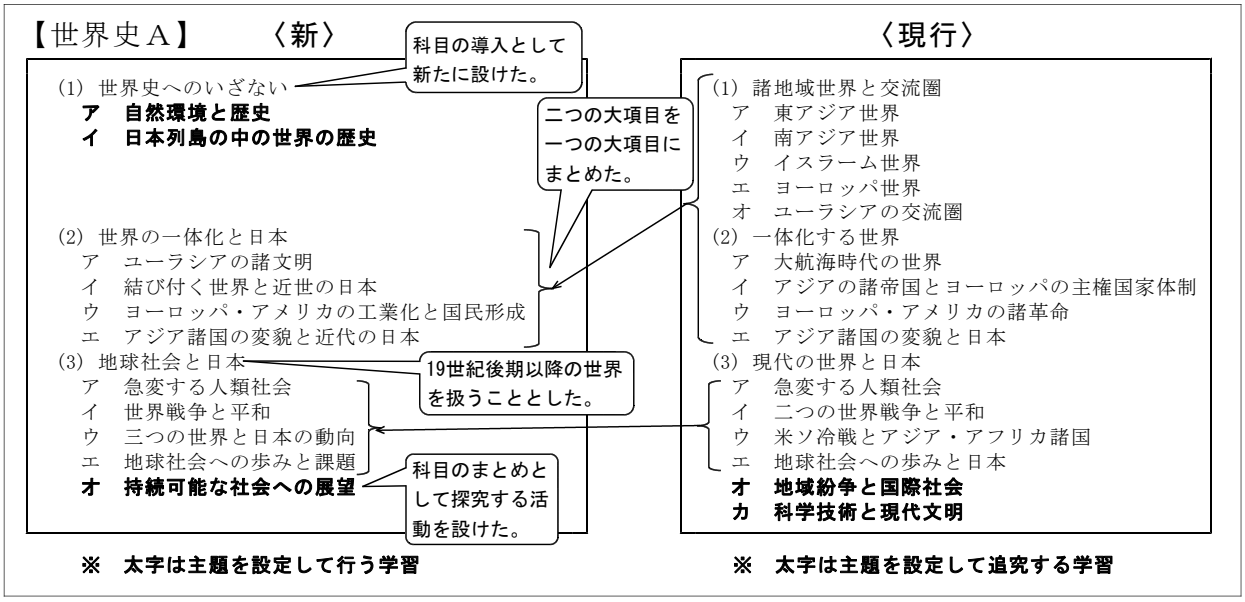
「地理Ａ」及び「地理Ｂ」の内容の取扱い(1)のウ

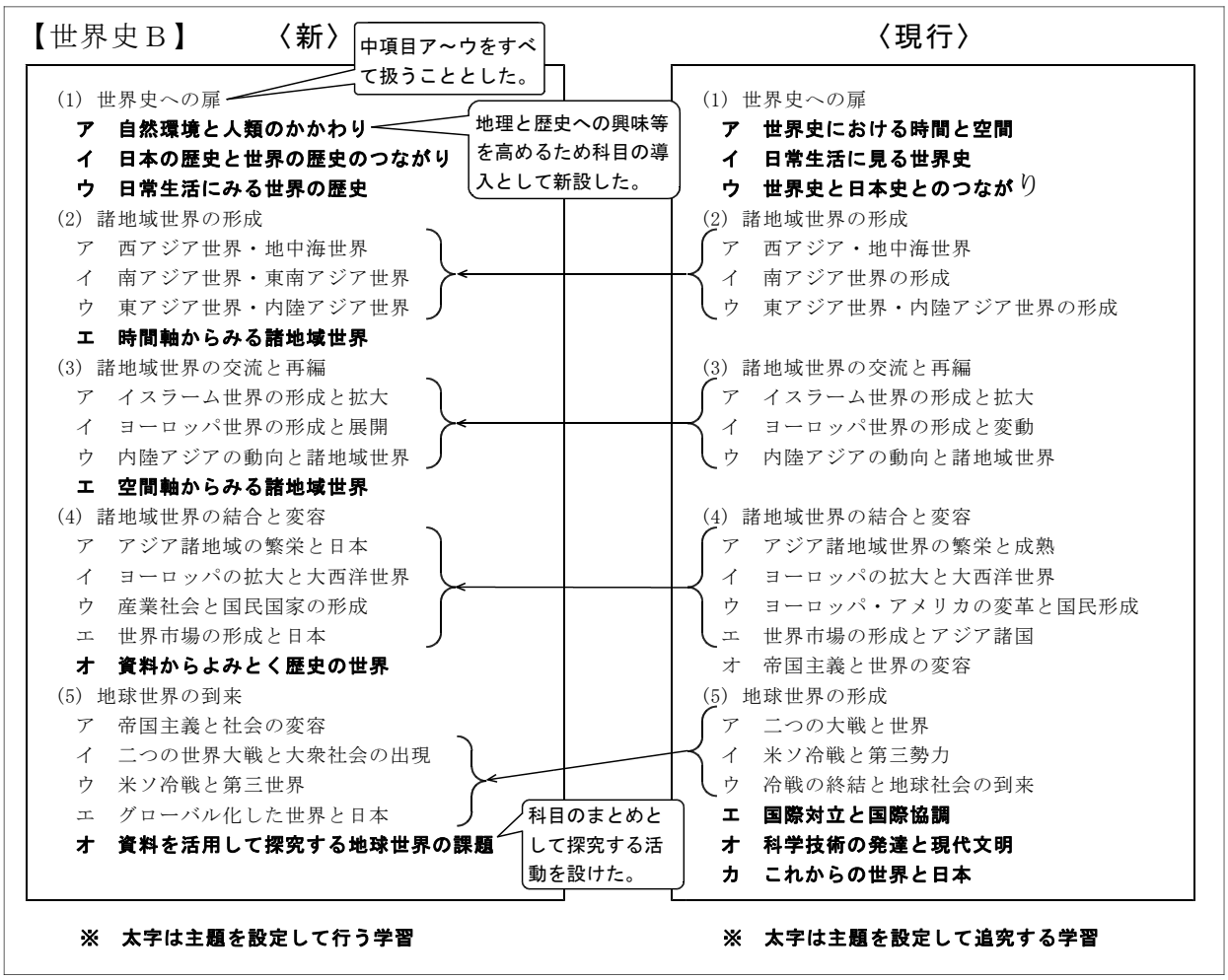
「地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させる。」

２　世界史Ａ、世界史Ｂ

問１　「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」の内容構成は、それぞれどのようになったのか。

「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」の内容構成については、それぞれ次のとおりとなっており、学習に当たっては、各時代の歴史を日本の歴史や地理的条件と関連付けて扱う。





問２　「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」において、指導内容を精選する際に配慮する事項は何か。

「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」は、生徒にとって、世界の歴史を初めてまとまった形で学ぶ科目であること、また、世界史が地理歴史科共通の必履修科目として位置付けられていることに留意し、基本的、本質的なものを精選、重点化することが重要である。精選、重点化に当たっては、現代の視点に立って変動する歴史とその意味をとらえたり、日本国民にとっての世界史という視点から世界の中の日本の位置付けや役割を考察したりするなどの点に配慮することが大切である。

特に、近現代史を中心として学ぶ「世界史Ａ」においては、その前段として、前近代の世界の枠組みを理解させることは必要であるが、「(2) 世界の一体化と日本」の「ア　ユーラシアの諸文明」は近現代史を理解するのに必要な基本的内容を学ばせるように構成されていることから、前近代史の指導計画の作成に際しては、それぞれの文明の特質や交流の具体的様相に着目して、内容の精選、重点化を図ることが大切である。

また、「世界史Ｂ」において指導計画を作成する際には、世界の歴史の大きな枠組みと展開をつかませるために、各項目に適切な授業時数を配分し、全体としてバランスのとれたものにすることが肝要である。

問３　「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」において、主題を設定して行う学習を進めるに当たって、どのようなことに留意すべきか。

主題を設定して行う学習の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導することが大切である。また、主題の設定に当たっては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等や地理歴史科の他の科目や公民科などとの関連に留意することが肝要である。

特に、「世界史Ｂ」においては、主題を設定して行う学習を各大項目に設けて段階的・継続的に指導することとし、歴史的な見方や考え方を深化させ、歴史的思考力を培うことを目指しており、次の点に留意することとしている。

「(1) 世界史への扉」

「世界史Ｂ」の導入的性格の内容であることを踏まえ、教師が主題を設定し、考察の過程を示しながら指導するなどの工夫が求められること。

「(2) 諸地域世界の形成」のエ
「(3) 諸地域世界の交流と再編」のエ
「(4) 諸地域世界の結合と変容」のオ
「(5) 地球世界の到来」のオ

(5)のオは特に…

時間軸、空間軸から整理し表現する技能、資料をよみとく技能、資料を活用して探究し表現する技能をそれぞれ取り上げ、段階的・継続的に指導することにより、歴史的思考力を培い、言語活動の充実を図ること。

ねらい
・「これからの世界と日本の在り方」や「世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現」について展望させる。

方法
・現代世界の特質と展開過程についての基本的な知識・理解を習得させ、それらの成果を踏まえ、現代世界の課題について適切な主題を生徒に設定させ、歴史的観点から探究させる。

留意点
・各種の情報や資料の収集・選択・活用、調査や見学、報告や討論などの多様な学習活動を取り入れる。
・探究のための十分な時間を確保する。
・諸資料を整備する。

３　日本史Ａ、日本史Ｂ

問１　「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」の内容構成は、それぞれどのようになったのか。

「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」の内容構成については、それぞれ次のとおりとなっており、学習に当たっては、各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させる。

【日本史Ａ】　〈新〉　〈現行〉

(1) 私たちの時代と歴史

科目の導入として位置付けた。

(2) 近代の日本と世界
ア　近代国家の形成と国際関係の推移
イ　近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢
ウ　近代の追究

二つの大項目で構成されていた近代を一つの大項目にまとめた。

第二次世界大戦以降の歴史を二つの中項目に再構成した。

(3) 現代の日本と世界
ア　現代日本の政治と国際社会
イ　経済の発展と国民生活の変化
ウ　現代からの探究

科目のまとめとして位置付けた。

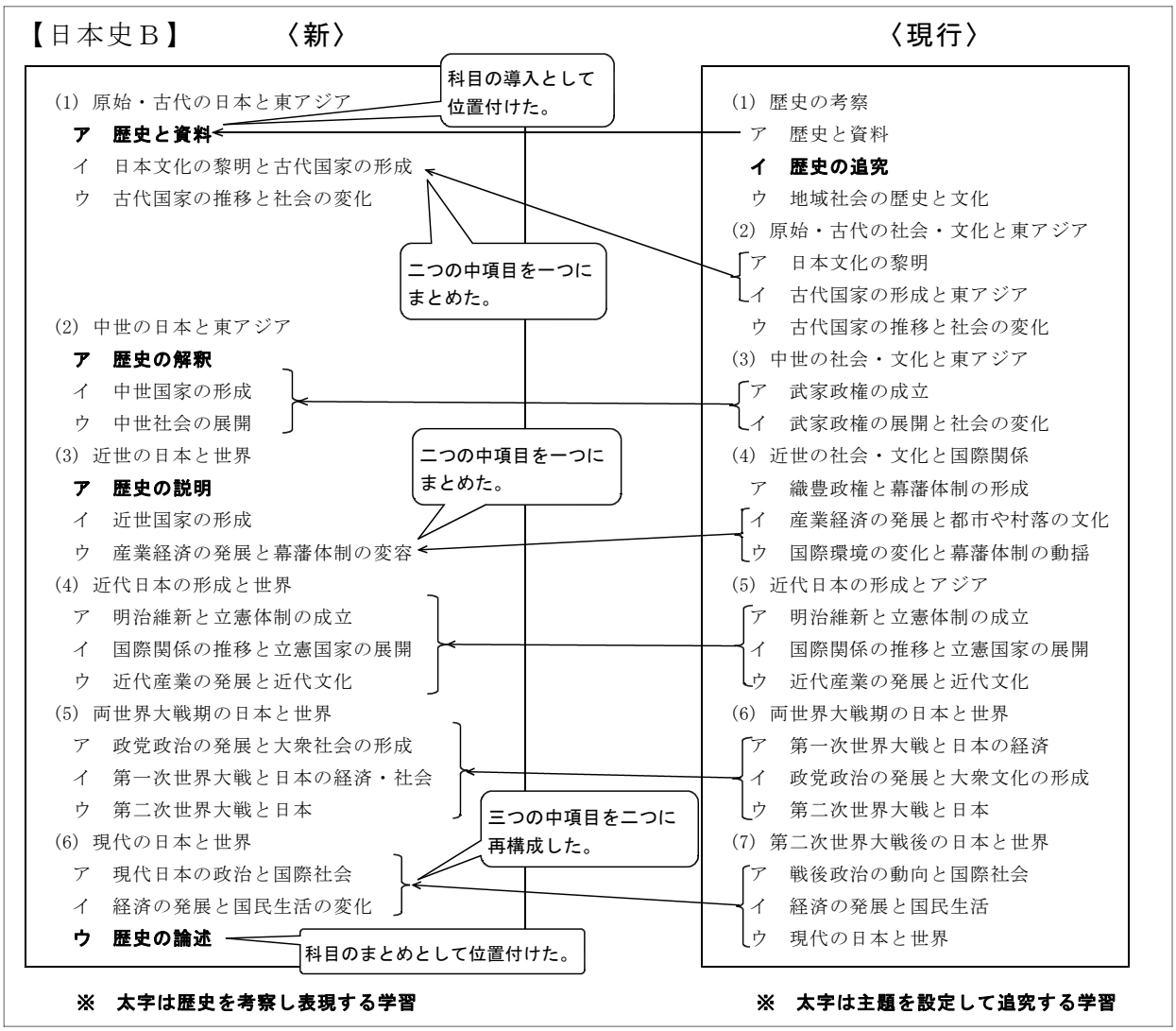
(1) 歴史と生活
ア　衣食住の変化
イ　交通・通信の変化
ウ　現代に残る風習と民間信仰
エ　産業技術の発達と生活
オ　地域社会の変化

(2) 近代日本の形成と19世紀の世界
ア　国際環境の変化と幕藩体制の動揺
イ　明治維新と近代国家の形成
ウ　国際関係の推移と近代産業の成立

(3) 近代日本の歩みと国際関係
ア　政党政治の展開と大衆文化の形成
イ　近代産業の発展と国民生活
ウ　両大戦をめぐる国際情勢と日本

(4) 第二次世界大戦後の日本と世界
ア　戦後政治の動向と国際社会
イ　経済の発展と国民生活
ウ　現代の日本と世界

※　太字は歴史を考察し表現する学習　　※　太字は主題を設定して追究する学習



問２　「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」において、我が国の歴史と文化の展開を国際環境や地理的条件などと関連付けて考察させるためには、どのようなことに留意すべきか。

国際環境と関連付けて扱うことについては、各時代における諸外国との接触・交流が、我が国の歴史と文化の展開にどのような作用を及ぼしたかを考察させるとともに、国際的な潮流の中に我が国を位置付け、世界の中の日本という視点から考察させるようにする。その際、「世界史Ａ」、「世界史Ｂ」で学習したことを生かすなど指導上の工夫を図り、各時代における国際環境について、年表、絵画や写真、関係図など適切な資料の活用を図るなどして関心を高めるとともに、国内外の諸事象間の因果関係を考察させる指導も重視する必要がある。

また、「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」が地理歴史科に属する科目であり、地理学習との関連を図る必要があることから、地理的条件を一層重視し、例えば、近代産業の発展の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させるなど、我が国の歴史を地理的条件と関連付けて多面的・多角的に考察させるようにする。その際、「地

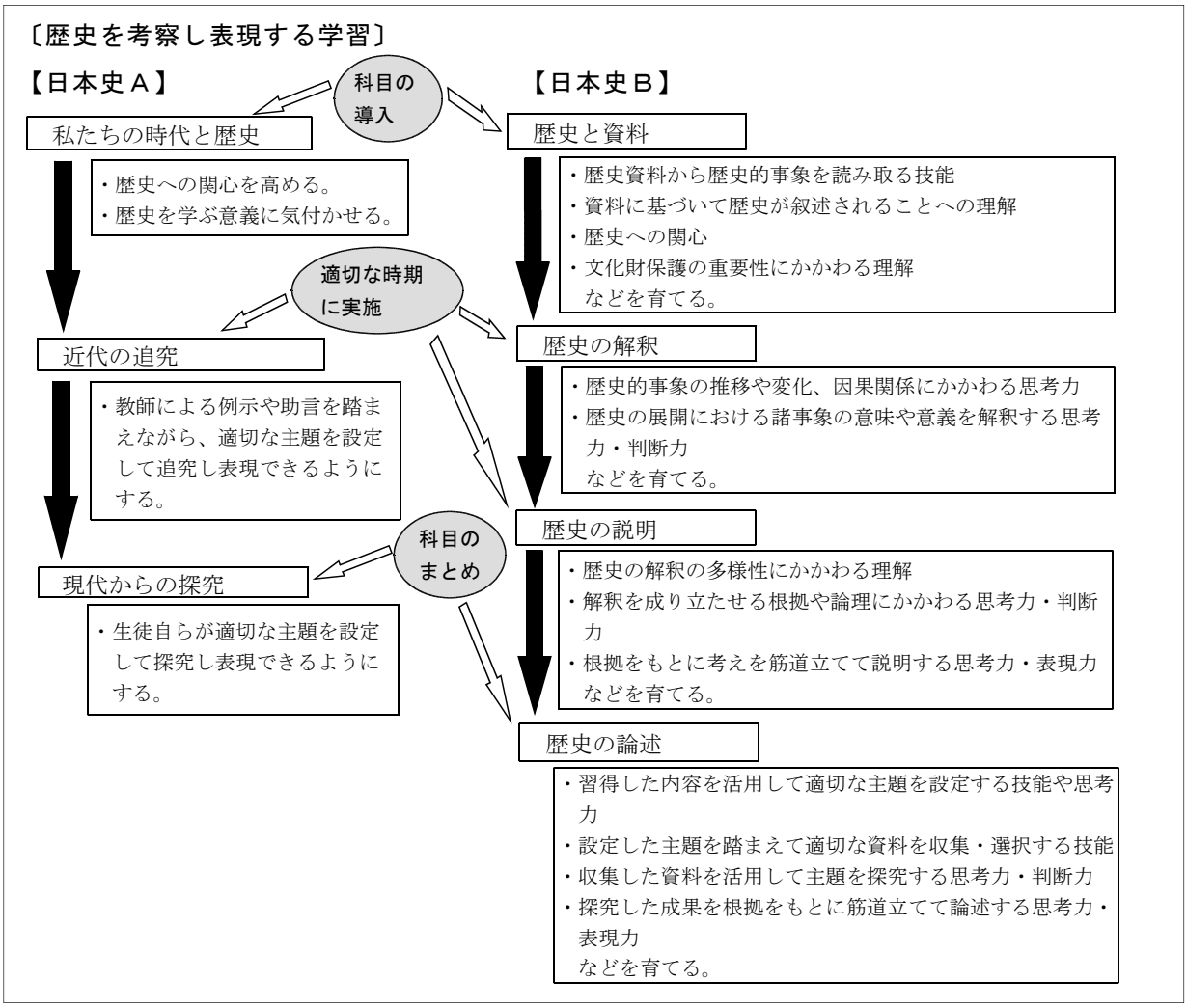
理Ａ」、「地理Ｂ」や中学校社会科地理的分野の学習との関連を十分に踏まえるよう留意する。

問３　歴史を考察し表現する学習の指導計画の作成に当たって、どのようなことに留意すればよいか。

今回の改訂では、「日本史Ａ」の内容に「私たちの時代と歴史」、「近代の追究」、「現代からの探究」の各項目を、「日本史Ｂ」の内容に「歴史と資料」、「歴史の解釈」、「歴史の説明」、「歴史の論述」の各項目を設けた。これは、言語活動を充実させ、習得した知識・概念のより深い理解と定着を図るとともに、資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせることをねらいとするものである。

指導計画の作成に当たっては、歴史を考察し表現する学習を指導計画の中に明確に位置付け、計画的・継続的に実施することが必要である。併せて、平素の学習においても課題解決的な学習を取り入れ、学習課題の解決に向けた思考・判断・表現等の活動を重ねることを通じて、言語活動の充実とともに、学習内容のより深い理解及び基礎・基本としての確かな定着が図られるよう工夫する必要がある。

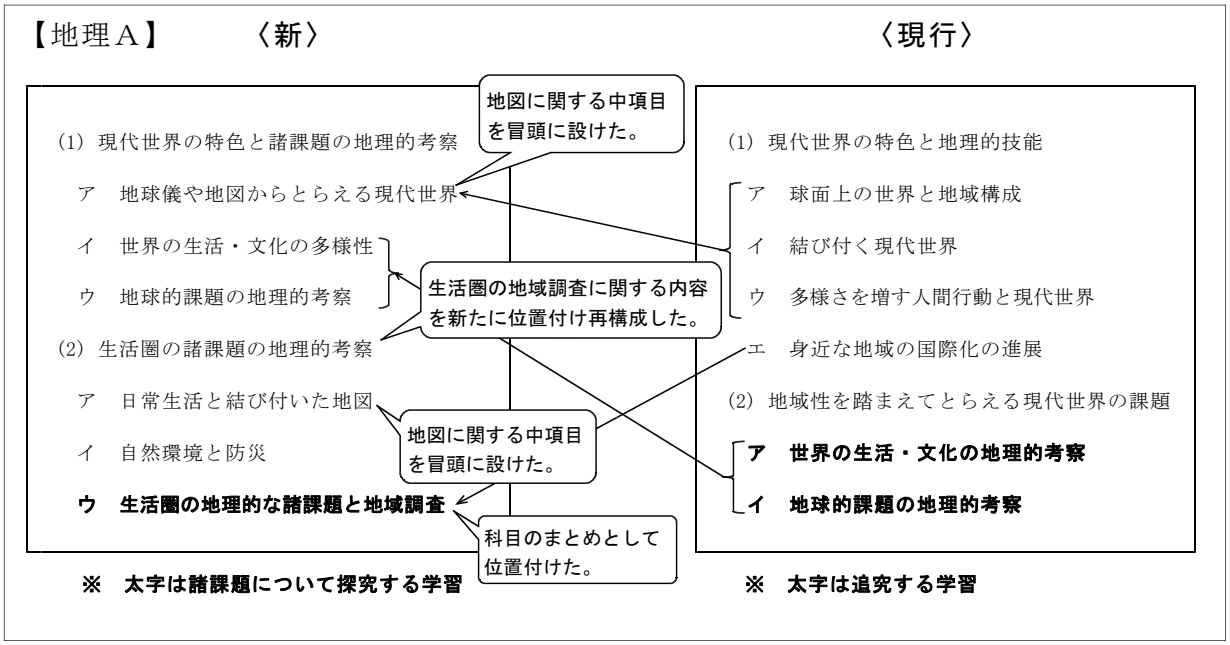
なお、次の図は、歴史を考察し表現する学習の概念を表したものである。

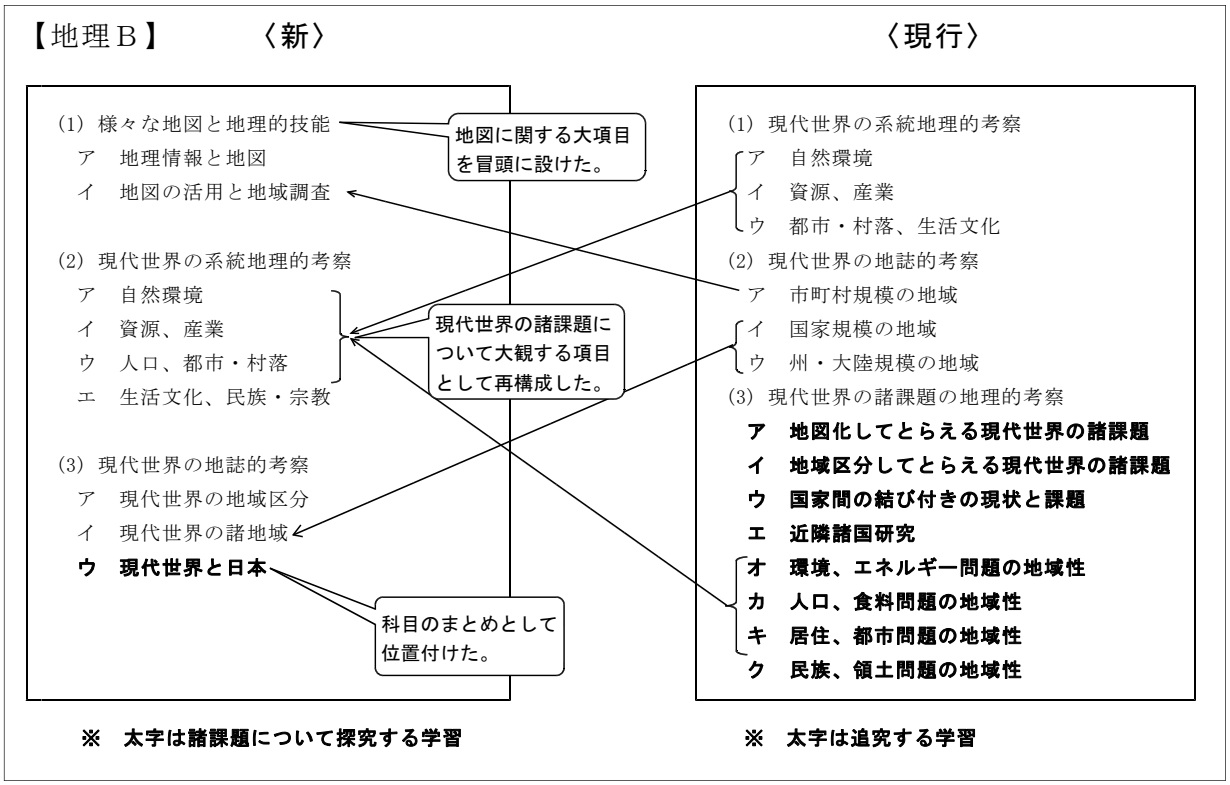


４　地理Ａ、地理Ｂ

問１　「地理Ａ」、「地理Ｂ」の内容構成は、それぞれどのようになったのか。

「地理Ａ」、「地理Ｂ」の内容構成については、それぞれ次のとおりとなっており、学習に当たっては、現代世界の地理的な諸課題や地理的事象を歴史的背景を踏まえて考察させる。





問２　「地理Ａ」、「地理Ｂ」において、歴史的背景を踏まえた考察を重視することとあるが、どのように取り扱ったらよいか。

今回の改訂において地理歴史科では、科目間の関連の重視を改訂の基本的な考え方の一つとして掲げた。これを、地理の科目では、歴史的背景を踏まえた考察を重視することで具現化することとした。

「地理Ａ」の目標については、現代世界や生活圏の諸課題を地理的に考察するに際し、歴史的背景を踏まえること、「地理Ｂ」の目標については、現代世界の諸地域を地誌的に考察するに際して歴史的背景を踏まえることを、それぞれ現行の目標に付加した。

学習活動においては、例えば、「地理Ｂ」の「(3) 現代世界の地誌的考察」の「ウ 現代世界と日本」において、現代世界における日本の国土の特色について考察する際、第二次世界大戦で国土の疲弊した日本が、高度経済成長を遂げて世界最先端の工業社会を構築し、今日では情報革命の進展で「知識基盤社会」の時代へと構造転換を始めているといった歴史的背景を踏まえることが大切である。

問３　「地理Ａ」、「地理Ｂ」において、それぞれの科目の性格や内容の違いについて、どのように明確化を図ったのか。

「地理Ａ」では、日常生活との関連を重視した学習内容の充実を図った。すなわち、身の回りにある地図を取り上げた学習や防災に関する学習など日常生活と密接に結び付いた内容を充実して、地理学習の有用性を認識させることができるようにした。

「地理Ｂ」では、現代世界の地誌学習を重視した学習内容の充実を図った。すなわち、現行の二つ又は三つの事例地域を選択して取り上げる学習に代わって、様々な規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げるなど現代世界の諸地域の地誌的な学習を充実して、より一層世界の地理的認識を深めることができるようにした。

「地理Ａ」と「地理Ｂ」の違い

【地理Ａ】		【地理Ｂ】
○グローバル化の進展、国際情勢や地球環境の変化などに伴う現代世界が抱える諸問題と、生活圏などの地域にみられる諸課題を地理的に考察する。	科目の性格	○様々な地図の読図や作図などの作業的、体験的な学習によって身に付けた地理的技能、系統地理的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界の諸地域の特色や諸課題を地誌的に考察する。
○現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察する。	学習対象と基本的な考察方法	○現代世界の地理的事象を、系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。